

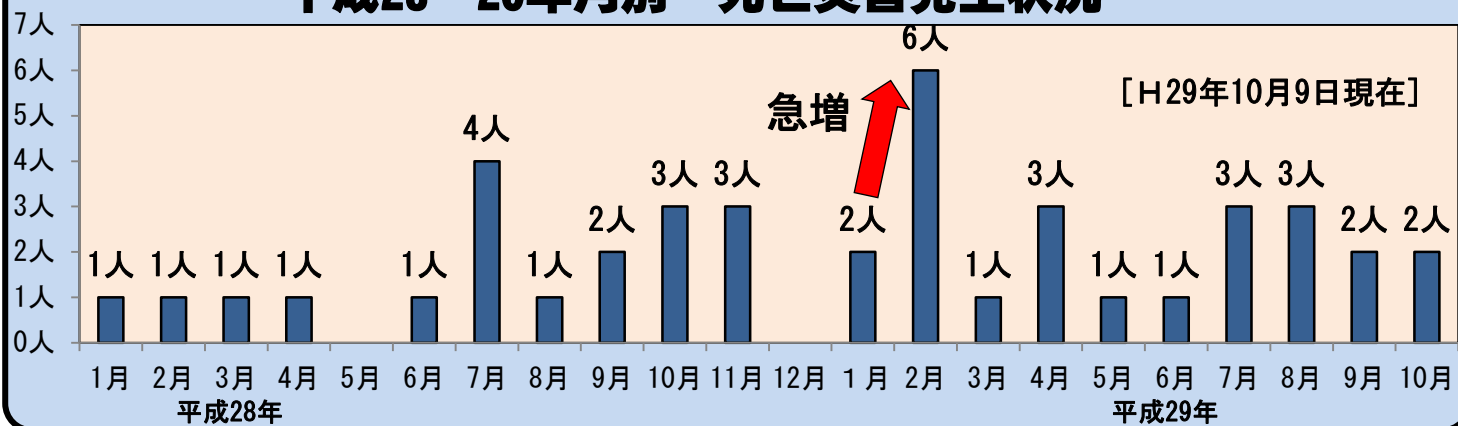


日本一安全・安心 (Safe Work, Change Work HIROSHIMA) な職場を!

死亡災害 多発!! (平成28年18人、平成29年10/9現在24人)

[死亡者が昨年1年間の18名を超え、さらに一昨年の平成27年と同数の24人に達しております~]

平成28・29年月別 死亡災害発生状況



【平成29年 死亡災害事例】 [交通死亡事故を除く]

No.	管轄署別	業種	発生日	性別	年齢	経年数	事故の型	起因物	災害発生状況
1	福山	道路貨物運送業	2月	男	50歳代	10~6	はさまれ、巻き込まれ	トラック	荷降ろしを済ませたところ、当該4tトラックが逸走し大型トラックの側面に挟まれた。
2	広島北	道路貨物運送業	2月	男	40歳代	1~	はさまれ、巻き込まれ	トラック	積雪のため立往生しタイヤチェーンを装着しようとしたところ、タイヤに巻き込まれた。
3	呉	造船業	2月	男	60歳代	50~41	高温・低温の物との接触	アーク溶接装置	台船の外板の亀裂箇所の溶接作業中、作業服に着火した。
4	三原	農業	2月	男	70歳代	10~6	はさまれ、巻き込まれ	掘削用機械	ミニトラック・ショベルで後進中、木の枝が背部に当たり運転席との間に挟まれた。
5	廿日市	商業	3月	男	20歳代	1~	転倒	フォークリフト	フォークリフトに荷を積載しフォークを上昇させたままの状態の後進し旋回したところ、転倒し下敷きになった。
6	三原	その他の事業	4月	男	70歳代	20~11	激突され	トラック	T字路から後進してきたトラックを見た被災者は、これを誘導するため、急いで休憩所を出た。車道に入ったところ、前進走行してきた別のトラックに激突された。
7	尾道	造船業	4月	男	30歳代	5~2	有害物等との接触	異常環境等	台船の船内に立ち上がったところ、内部が酸素欠乏状態となっていた。
8	三次	建設業	4月	男	40歳代	30~21	墜落、転落	掘削用機械	ドラグ・ショベルが路肩を踏み外して調整池に転落した。
9	尾道	造船業	5月	男	60歳代	50~41	飛来、落下	その他の圧力容器	船舶の加熱温水器を補修するため圧縮空気をかけて水を抜こうとしたところ、側板が破裂した。
10	三原	造船業	7月	男	20歳代	5~2	墜落、転落	高所作業車	塗装作業中、高所作業車が逸走し高所作業車ごと約5メートル下の船台に転落した。
11	広島中央	建設業	7月	男	20歳代	1~	高温・低温の物との接触	高温・低温環境	屋根上で金属製スレートカバーを運搬する作業を行っていたが、当該作業が終了し、地上にて点呼を行った。その後、屋根上で意識を失った被災者が発見された。(熱中症)
12	広島中央	商業	7月	男	50歳代	5~2	墜落、転落	窓	朝礼前に換気のために開けていた消防用の窓を閉めようとしていた。カーテンの紐が窓の外側に出ていた為、窓枠に上がり取ろうとした際、窓が動き4階より地上に墜落した。
13	広島北	陸上貨物取扱業	8月	男	40歳代	5~2	墜落、転落	フォークリフト	フォークリフトを操作して荷のピッキング作業をしていたところ、後進中のフォークリフトごとプラットホーム(高さ約1m)から墜落した。
14	三原	建設業	8月	男	50歳代	5~2	高温・低温の物との接触	高温・低温環境	市道等維持補修の除草作業を終日行って会社に戻り、その後、事業場敷地内の駐輪場で意識不明の状態で見つかり、2ヶ月弱入院していたが、9月下旬に死亡した。(熱中症)
15	呉	清掃・と畜業	8月	男	50歳代	20~11	はさまれ、巻き込まれ	トラック	重機の整備を行っていたところ、後進してきた散水車に激突され、重機と散水車との間に挟まれた。
16	呉	製造業	9月	男	60歳代	10~6	墜落、転落	はしご等	工場内の壁面パネルを外す作業を一人で行っていたところ、脚立から墜落した。
17	広島中央	商業	10月	男	20歳代	5~2	おぼれ	水	カキ筏の運搬作業を終えて、漁船で戻る際、海に転落した。
18	福山	建設業	10月	男	50歳代	10~6	激突され	掘削用機械	ドラグ・ショベルで、コンクリートブロックを吊り上げる作業中、バケットが下がり、近くでブロックの玉掛け作業を行っていた被災者の頭部が、バケットとブロックの間に挟まれた。



墜落・転落災害、飛来・落下災害、交通事故、機械災害の防止を重点として、労働災害防止対策に取り組みましょう!

重点

墜落・転落災害

飛来・落下災害

交通事故

機械災害

～全国統計でも死亡災害が増加しています！！～

平成 29 年 9 月 22 日
労働基準局 安全衛生部 安全課

報道関係者 各位

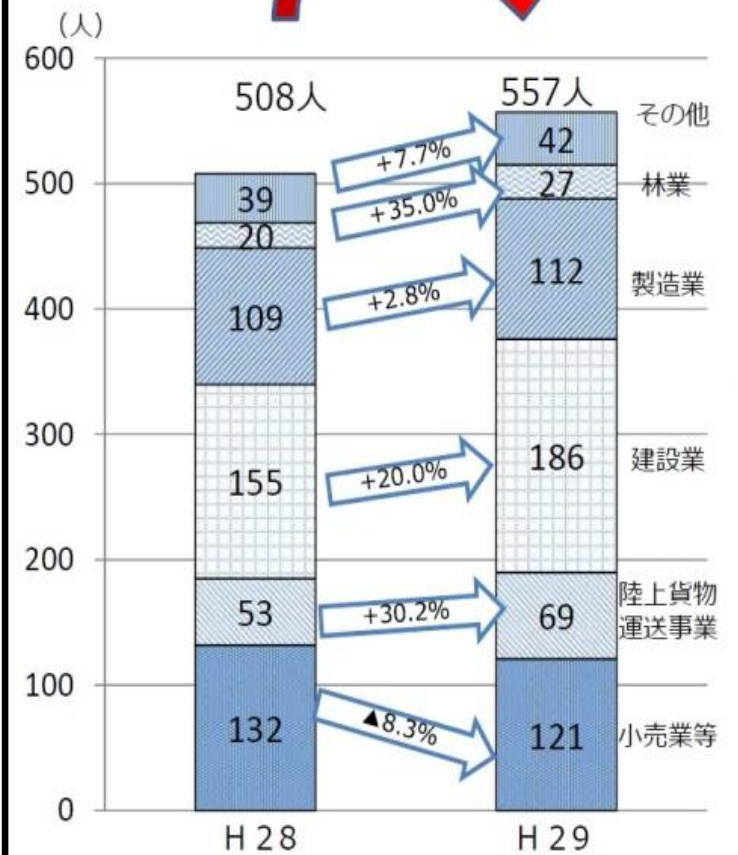
「職場における死亡災害撲滅に向けた緊急要請」を実施

～死亡者数の急増を受け、業界団体などに安全衛生活動の総点検などを要請～

厚生労働省は、平成 29 年の労働災害による死亡者数（1 月～8 月の速報値）が対前年比で増加し、特に 8 月に急増したことを受け、本日、労働災害防止団体や関係事業者団体に対し、職場における死亡災害撲滅に向けた緊急要請を行いました。

9 月 20 日に公表した、平成 29 年の労働災害発生状況（1 月～8 月の速報値）では、死亡者数が対前年比 9.6%（49 人）の増加、休業 4 日以上之死傷者数が対前年比 0.9%（600 人）の増加となりました。また、8 月単月の死亡者数は 66 人となり、対前年同月比 57.1%（24 人）の大幅な増加となっています。

死亡災害
+49人(+ 9.6%)



〔全国の 1 月～8 月の死亡災害速報値〕

死亡災害が増加している業種での取組のポイント

建設業

- 建設機械などによる「はさまれ・巻き込まれ」が 80.0%（8 人）増加
- 屋根や足場などからの「墜落・転落」が 6.6%（5 人）増加
- 「交通事故（道路）」が 71.4%（10 人）増加

- 労働者の立ち入り制限や誘導員の配置など、車両系建設機械などとの接触防止対策の実施
- 高所作業における作業床の設置、安全帯の着実な使用などの墜落・転落防止対策の実施
- 「交通労働災害防止のためのガイドライン」に基づく対策の実施

陸上貨物運送事業

- 荷役作業時などの「墜落・転落」が 500.0%（10 人）増加
- 「交通事故（道路）」が 14.3%（4 人）増加

- 荷役 5 大災害防止対策チェックリストを活用した荷役作業での安全対策の実施
- 「交通労働災害防止のためのガイドライン」に基づく対策の実施

林業

- 伐木などによる「激突され」が 77.8%（7 人）増加

- 「チェーンソーによる伐木等作業の安全に関するガイドライン」に基づく対策の実施

製造業

- 機械などによる「はさまれ・巻き込まれ」が 2.7%（1 人）増加

- リスクアセスメントや機能安全による機械設備の安全対策の実施
- 高経年設備に対する優先順位を付けた点検・補修などの実施

※数値は、平成 29 年 1 月～8 月の死亡災害の速報値

※全国の死亡災害の分析より